

良好な経過をたどった Hair tourniquet syndrome の2例

大 平 千 夏¹⁾・中 川 敬 介²⁾・宅 間 仁 美²⁾

新 谷 康 介¹⁾・細 見 僚¹⁾・北 野 利 夫¹⁾

1) 大阪市立総合医療センター 小児整形外科

2) 大阪市立大学大学院 整形外科

要 旨 【はじめに】Hair tourniquet syndrome(HTS)は、毛髪や糸により手指・足趾・性器などが狭窄しうっ血を引き起こすまれな疾患である。【症例1】3か月、男児。左第5趾に索状物が絡まりうっ血していることに母親が気づき来院した。左第5趾に強い絞扼と趾尖部のうっ血が見られた。麻酔下にルーペで観察すると、絞扼部分に索状物が巻きついており、これを切離するとうっ血・絞扼痕は改善した。【症例2】2か月、女児。左中指・環指に毛髪が絡まり絞扼していることに母親が気づき、近医小児科を受診した。毛髪を除去され、翌日に当院を受診した。特に中指に絞扼痕とうっ血が残存していたが、麻酔下にルーペで毛髪の遺残がないことを確認した。その後、絞扼・うっ血は改善した。【考察・結論】HTSは乳幼児での報告が多く、偶発的に起こることが多いとされるが、児童虐待例の報告もあり、その可能性も念頭に置いて全身の診察を行うことが重要である。

はじめに

Hair tourniquet syndrome(HTS)は、毛髪や糸などにより手指・足趾・性器などが狭窄し、虚血を引き起こす状態であり、まれであるが治療緊急性の高い疾患である。今回、合併症なく経過したHTSの2例を経験したので報告する。

症 例 1

0歳3か月、男児。左第5趾に絞扼がありうっ血していることに母親が気づき近医を受診し、当院へ紹介となった。肉眼所見上、左第5趾の絞扼と趾尖部のうっ血がみられた。HTSを疑い、全身麻酔下にルーペで絞扼部分を確認すると、灰色の索状物が確認されたため、これを切離した。その直後から絞扼痕とうっ血は徐々に改善したことからHTSと診断した。切離した索状物は、病理組織学的検査で毛髪であると確認された(図1-a,

b, c, d, 図2)。

症 例 2

2か月、女児。両側先天性内反足に対して当院通院加療中であった。左中指・環指に毛髪が絡まり絞扼していることに母親が気づき、近医小児科を受診し毛髪を除去され、翌日当院へ紹介となった。来院時、左中指の絞扼とうっ血が残存していた。HTSの診断でルーペを用いて絞扼部に毛髪の遺残がないことを確認した。その後約1週間の経過で絞扼痕・うっ血共に改善がみられた(図3-a, b, 図4-a, b)。

考 察

HTSは毛髪や糸などにより手指・足趾・性器などに絞扼を来す病態で、リンパ・静脈還流の障害により罹患部の腫脹・変色・冷感を来す¹⁾。絞扼が強い場合は、骨侵食を来す症例もあり¹⁾、治

Key words : hair tourniquet syndrome(hair tourniquet syndrome), necrosis(壊死), child abuse(児童虐待)

連絡先 : 〒534-0021 大阪府大阪市都島区都島本通2-13-22 大阪市立総合医療センター 大平千夏 電話(06)6929-1221

受付日 : 2020年2月27日



$\frac{a}{c} \mid \frac{b}{d}$

図1

- a: 当院受診時
- b: 索状物の切離直後
- c: 切離後1週間
- d: 切離後2か月

療が遅れると罹患部の壊死・切断に至る恐れがあるため、早急な処置が必要となる。本病態の発生は多くが偶発的で、乳幼児が使用する手袋や靴下内の糸により生じる例もある²⁾。また、湿った状態では伸縮性があり乾燥すると縮む毛髪の性質が発生に関係しているとも考えられている³⁾。好発

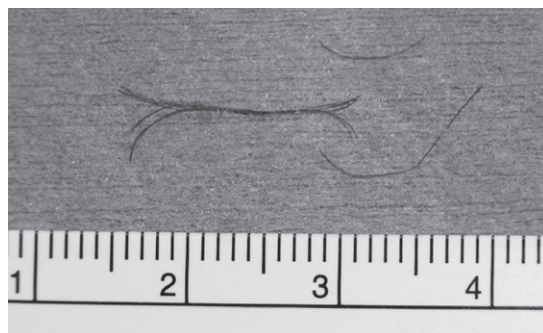


図2. 毛髪



図 3

a: 毛髪除去翌日

b: 毛髪除去翌日



a|b



図 4

a: 毛髪除去後6日目

b: 毛髪除去後6日目



a|b

年齢は、生後4か月ごろとされており、これは母親の脱毛が産後2～6か月の時期に増加するためと考えられている⁴⁾。

HTSが疑われれば、早急に絞扼の原因となっている繊維を除去する必要があるが、腫脹が強い例や上皮組織に覆われている例では除去が困難な場合があり⁵⁾⁶⁾、それに対応するためにも手術室での処置を推奨する報告もある⁵⁾。我々が経験した症例1も、全身麻酔下でなければ絞扼を解除できなかった。

また、HTSでは虐待の可能性を念頭に置くことも重要である⁵⁾。特に複数指や外性器に生じている場合には虐待を疑う必要がある。夜尿症を防ぐ目的に外性器を結ぶ親の存在も報告されており²⁾⁷⁾、このような症例に遭遇したら罹患部以外にも全身の診察を行うことが求められる。

予防法としては、乳幼児の生活空間を清潔に保

つことや衣服を裏返して洗濯すること、本病態の存在を両親に周知することなどが挙げられている^{1)~3)}。

今回の2例はいずれも病態完成から繊維の除去まで早急に対応できたことで、患指は温存でき合併症なく経過したと考えられる。

結 論

良好な経過をたどった Hair tourniquet syndrome の2例を経験した。HTSの存在を周知し、遭遇した際には早急に治療を行う必要がある。また、虐待の可能性を念頭に置き診察することが重要である。

文献

- 1) Barton DJ, Sloan GM, Nichter LS et al : Hair-thread tourniquet syndrome. *Pediatrics* 82 : 925, 1988.
- 2) Bastug O, Korkmaz L, Korkut S et al : Hair-

- thread tourniquet syndrome in a preterm baby. Turk Pediatr Ars **50** : 245-247, 2015.
- 3) Haene RA, Loeffler M : Hair tourniquet syndrome in an infant. J Bone Joint Surg **89** : 244-245, 2007.
- 4) Hussin P, Mawardi M, Masran MS et al : Hair tourniquet syndrome : revisited. G Chir **36** : 219-221, 2015.
- 5) Klusmann A, Lenard HG : Tourniquet syndrome—accident or abuse? Eur J Pediatr **163** : 495-498, 2004.
- 6) Mat Saad AZ, Purcell EM, McCann JJ : Hair-Thread Tourniquet Syndrome in an Infant With Bony Erosion. A Case Report, Literature Review, and Meta-analysis. Ann Plast Surg **57** : 447-452, 2006.
- 7) Strahlman RS : Toe Tourniquet Syndrome in Association With Maternal Hair Loss. Pediatrics **111** : 685-687, 2003.